

「不妊治療は時間との勝負」と話す徐院長（西宮市で）



徐クリニックARTセンター（西宮市）

徐東舜 院長

病院の 実力

*兵庫編96

不妊治療

精神面でサポート

医療機関ごとの治療実績を紹介する「病院の実力」は今回、「不妊治療」を取り上げる。治療法などについて、徐クリニックARTセンター（西宮市）の徐東舜院長（58）に話を聞いた。

（松田俊輔）

類の検査を行います。

1か月の間に3、4回来院が必要で、得られた検査結果から治療方針を立てます。月経周期による排卵日の予測をもとにしたタイミング法から始めますが、女性の年齢が35歳に近かったり、超えていたりする場合、人工授精や体外受精から始めることもあります。

不妊とは、希望しながら1年間妊娠しない状態を指します。当院では30歳代円。高度な技術を要する体外受精では、1回約40万円の多数を占めています。治療ではまず、不妊の原因を特定するために、採血することとなり、負担は決しや超音波検査など、約10種で軽くはありません。

少子化対策の観点から、

女性の社会進出に従って、結婚や出産の年齢が高

なっています。兵庫県の場合、高度医療1回につき最大20万円を助成する仕組みがあり、2月からは初回補助の上限を30万円に引き上げました。ただ、助成を受けられる回数などは自治体によって制限があるので、県やお住まいの市や町などに問い合わせしてみてください。

加齢とともに卵子が劣化する

不妊治療では結果に一喜一憂することとなり、期間が長引けば精神的な負担も増していきます。当院では不妊治療を考える夫婦を対象にした約1時間の体外受精セミナー（参加無料）を週1回開いています。また、不妊カウンセラーなどの資格を持ったスタッフが相談に当たる「カウンセリング外来」もあり、精神面でのサポートを行っています。

年齢というタイムリミットがあるため、不妊治療は時間との勝負です。早く受診すればするほど、いい結果にたどり着きやすくなります。少しでも不安があれば、まず受診して、医師などに相談してみてください。